

検察側「被害者証人」の江田雄次証人への弁護側反対尋問!

(当時東京地本執行委員・革同)

12・21

第33回公判を傍聴しよう!

各被告の実行行為にかかわる弁護側反対尋問の2回目

検察側の「被害者証人」として、江田雄次(事件当時、国労東京地本執行委員・革同)への証人尋問が、第30回公判(10月19日)から開始され、第31回(11月8日)、第32回(11月29日)と行われ、本日の第33回公判では、各被告の実行行為にかかわる弁護側の反対尋問の2回目が行われます。

前回公判では、以下のことが明らかになりました。江田証人は、「被告たちの当日の行動はピラまきとは思えなかった」と証言しましたが、検察での調書に「ピラを持っていた者も何人かいた」と供述している事実をつきつけられて、公判での証言を撤回せざるを得なかったのです。

さらに、江田証人は、被告たちと接触する直前に「そこをどきなよ、おまえ」と叫んだことを認め、彼には、ピラを受け取ったり、被告の声に耳を傾ける姿勢がまったくなかったことが明らかとなりました。

さらに、被害届の提出は、鈴木勉(東京地本法対部長)から話があったこと、ビデオを見ながら警察官と相談して書いたこと、鈴木法対部長や酒田委員長と相談して決めたことも証言しました。事件から5か月も経って被害届を出した理由を、10月7日(被告たちの逮捕の日)の押収ビデオが出てきたこと、ホテル前の出来事は被害届を出すまでもない程度のもものだったが、大会での暴力をやめさせるために被害届をだしたこと、刑事事件にするにはビデオなど証拠が必要と考えていたことを証言しました。

本日、公正裁判・無罪判決要求署名1万4822筆(計2万360筆)を提出

許さない会が呼びかけている「公正裁判・無罪判決を求める10万人署名」を本日、1万4822筆(計2万360筆)提出します。無罪勝利にむけて全国で、とりわけ国労の中で署名が取り組まれています。裁判所を大きな無罪要求の運動で包囲し、被告・家族と一体となって無罪獲得まで闘いましょう。10万人署名を集めてください。賛同会員になってください。

許さない会

国労5.27臨大
闘争弾圧を
許さない会

◆連絡先
葉山法律事務所
東京都港区南青山
5-10-2 第2丸ビル505
tel.03-3797-3990
fax.03-3797-3950
◆ホームページ
www.008.upp.so-net.ne.jp/yurusanaei/



第33回公判に多くの方が傍聴されるようよびかけます。

2002年5月に開かれた国労臨時大会は、「4党合意」に反対する闘争団員を、与党のいいなりになつて国労から除名しようという異常な大会でした。処分理由は、最高裁での裁判への訴訟参加を申し立てたことや、新たに鉄建公団を相手どつて訴訟を起こしたことでした。闘争団員など反対派組合員は、これに対する抗議の一環として本部派の宿舎前でピラまき・説得活動を行いました。ところが警察は、国労内一部役員の協力を引き出し、労働組合員のこの正当な組合活動を大会破壊であつたかのように描いて介入し、10月に国労組合員7人と支援者1人を逮捕・起訴しました。前代未聞の労働運動弾圧です。

国労5・27臨大闘争 弾圧とは?

12・19許さない会集会に400名結集！ 無罪勝利まで闘うことを誓った！

12月19日、星陵会館で「無罪獲得・国労再生、国鉄1047名闘争勝利！ 国労5・27臨大闘争弾圧を許さない会12・19全国集会」が開催され、会場をあふれる400名の労働者が参加しました。

発起人を先頭に被告・家族、国労組合員が集会全体を担い、無罪勝利まで闘うという決意のみなざる、かつ労働者としての誇りに満ちたすばらしい集会となりました。



国鉄労働者、教育労働者、金属労働者の感動的な闘いの報告

集会では、連帯の挨拶として、動労千葉や国労闘争団、都高校の被処分者、全金本山労組から発言がありました。「労働者として譲れないものがある」「一人の首切りも許さない闘いを34年貫いてついに勝利をかちとりつつある」「解雇撤回の原則を貫いて闘うことが勝利への最短コース」「日の丸・君が代強制は戦争への道であり、絶対に譲れなかった。不起立は教育基本法改悪・憲法改悪反対の闘いだ」と、感動的な報告や決意が語られました。

国鉄1047名闘争勝利と来春「日の丸・君が代」反対闘争へ檄！

手嶋浩一さん、高山俊吉さん、師岡武男さん、小野坂弘さんは、許さない会の発起人として、闘いの勝利にかけたそれぞれの熱い思いを語りました。

弁護団は、佐藤弁護団長をはじめ大口昭彦さん、葉山岳夫さん、河村健夫さん、浅野史生さん、西村正治さんが登壇し、大口さんが無罪勝利まで被告と一体で闘うと弁護団の決意を表明しました。

講演した下山房雄さんは、国労5・27臨大闘争弾圧を許さない闘いの意義を6点にわたって話し、全世界での新自由主義との闘いの中で国鉄1047闘争の持つ意味とこの弾圧との闘いに勝利することの重要性、自分の闘いとして貫くことを語ってくれました。

続いて講演した中野洋さんは、国鉄1047名闘争の危機的現状と、しかしそれを乗り越えて鉄建公団訴訟で統一して闘っていく意義を話し、国鉄1047名闘争勝利と5・27弾圧粉碎の闘いは一体だと提起しました。国際連帯と闘う労働運動の新潮流をつくろうと話しました。さらに、都高教の「日の丸・君が代」反対闘争の意義を語り、来春「日の丸・君が代」での不起立闘争が05年の闘いの展望をつくること、全労働者の闘いとして共に闘うことを訴えました。

無罪勝利まで闘うことを参加者全員で確認！

満場の拍手の中で被告8人と家族が登壇しました。昨年奪還されて1年が経過し、無罪獲得・国労再生にむけて自信に満ちて闘っていく決意が全員から語られました。最後に佐藤昭夫さんが、会を発展させ「無罪勝利まで闘う」こと、国鉄1047名闘争に勝利することを提起し、参加者全員で確認しました。

よびかけ発起人

佐藤昭夫（早稲田大学名誉教授・臨大闘争弾圧事件弁護団長） 加藤晋介（鉄建公団訴訟主任弁護士）
土屋公献（日弁連元会長） 高山俊吉（弁護士） 宮島尚史（労働法学者） 北野弘久（憲法学者）
山口孝（明治大学名誉教授） 立山学（評論家） 六本木敏（国労元委員長） 針生一郎（評論家）
芹澤壽良（高知短期大学名誉教授） 師岡武男（評論家） 大和田幸治（全国金属機械港合同事務局長）
武建一（全日建運輸連帯労組関西生コン支部委員長） 手嶋浩一（国労九州本部前書記長）
岩崎隆次郎（元福岡県評事務局長） 下山房雄（九州大学名誉教授） 石村善治（福岡大学名誉教授）
中西五洲（全日自労三重県本部委員長） 小野坂弘（新潟大学名誉教授） 中野洋（動労千葉前委員長）